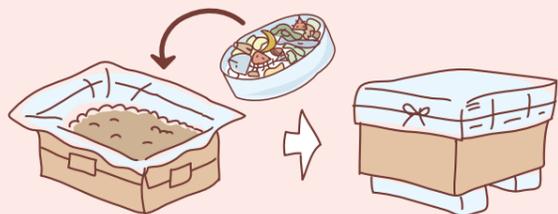




それではスタート!家庭の生ごみ堆肥化大作戦

最初の日~1週間後

- ココピート・そば殻くん炭をよく混ぜます。
- 段ボール箱のふたを内側または外側におり、ガムテープでしっかりとめます。(じゃまにならないように)
- 大きなビニール袋を2重にし、口を開けた状態で段ボール箱の中に入れます。
- ①で混ぜた基材の1/2~2/3を段ボール箱の中のビニール袋に入れます。
- 最初の日から1週間は穴を掘って生ごみを入れて周りを基材で覆います。
- ふたは新聞紙などを段ボール箱にかぶせてひもなどを使ってしっかりとめます。
- 雨が当たりにくく、風通しの良いところに置きます。(段ボールと地面の間にペットボトルを置くことより風通しがよくなります。)



※基材の量は家族の人数や生ごみの量で調整してください。使わなかった残りはとっておき、必要に応じて足してください。

1週間後~3ヶ月後

- 箱の中が温かくなっていませんか?分解が始まっている証拠です。かすかにいいにおいも
- 1週間後ぐらいからは、まず全体をかき混ぜ、穴を掘って生ごみを入れて周りの土で覆います。かき混ぜるときは大きな木べらがあると便利。基材と生ごみが少ないときは袋ごと取り出して混ぜてもいいですね。空気を入れ込むと好気性菌が元気になって分解が進みます!



※毎日(または数日ずつ)生ごみを投入します。

3ヶ月後~

- 分解の速度が遅くなり全体が土っぽくなってきたら生ごみ投入をやめます。
- その後1ヶ月ぐらいは空気を入れるためにかき混ぜます(熟成期間)
- 温度も上がらなくなり、「腐葉土」のような状態になったら堆肥の完成!



※熟成期間をおかずに堆肥を使うと植物にダメージを与えてしまいますので注意!
※生ごみの量や置き場所によって土っぽくなるタイミングが異なります。

入れてよい生ごみ

台所から出るものは何でも段ボール箱に入れてみましょう。野菜くずだけでなく魚のあらや肉類もOKです! 他には、コーヒーやお茶の出し殻も入れられます(自然乾燥をして水分は適度に抜いておきましょう)。

※食べられる程度の大きさに切っておくと分解が早く進みます。

入れられるけれど分解しにくいもの

貝殻・大きな種・硬い骨・とうもろこしの芯・硬い皮(小さく切ればOK)・タマネギの皮

※分解しにくくても大丈夫。微生物の住みかとなって、次の堆肥づくりに役立ちます。

入れないもの

- 塩分のあるもの(いい肥料になりません)
- 生ごみではないもの(結束テープなど)
- カビだらけのもの(コンポストの中もカビが発生してしまいます)

白カビや虫がわいた

対処法

- 表面にうっすらとした白いカビが生えたら全体をよくかき混ぜて空気を入れます。かき混ぜて粉れてしまう程度でしたら大丈夫です。そのまま続けてください。
- 小さい虫が飛んでいても気にせず続けましょう。ただし、生ごみやコンポストの中に卵を産まれないように気をつけて。
- 小バエやダニなどが発生したら、廃食油などを入れて(段ボール)コンポストの温度を高くすると退治することができます。
- 対応できないぐらいのカビや虫等がわいたら処分して、気を取り直してまた始めましょう。

白カビはよい状態の証

生ごみの堆肥化には色々な微生物が関わっています。白いカビは有機物が分解する過程の糸状菌(カビ)。白カビは生ごみが着実に分解されているよい状態の証です。

何かの芽が出てきた

対処法

- 種を入れると芽が出る場合があります。芽が出たら土に混ぜてしまいましょう。



完成した堆肥の使い方

みどりを育てよう

- 完成した堆肥を目の粗いふるいにかけます。ふるったものを「土2:堆肥1」程度の割合で混ぜ合わせてプランターに入れ、さらに2週間程度寝かせてから苗を植えたり、種をまきます。
- 肥料として土の上から与えるときも、「土1:堆肥1」程度に混ぜ、2週間程度寝かせてから、植物の根本に触れないように置きます。

※十分に寝かせてから使わないと植物を傷めてしまいます。

※ふるいに残ったものは次の堆肥づくりに使います。

すぐに使わないときの保存方法

- ふるいにかけたものを新聞紙の上などで乾かして、紙袋に入れて保存しておきます。



次の堆肥づくりに役立てよう

- 堆肥(1ヶ月の熟成期間中でもOK)を500グラムから1キロ程度取り分けれます。または、完成した堆肥をふるった際にふるいに残ったものを取り分けれます。
- 取り分けたものを新しい基材と混ぜ合わせます。新しい基材は、①ココピートとそば殻くん炭を混ぜ合わせたもの、②段ボール箱の1/3~1/2程度の量の落ち葉、③自宅のプランターなどの普通の土のどれでもOKです。
- 生ごみを投入し、全体を混ぜることを3ヶ月程度繰り返せば新しい堆肥の完成です。うまくいくとこちらの方が温度が上がります(70℃以上になることも!)、早く完成します。



困ったときはこうしよう



温度が上がらない

対処法

- ① スタートして2週間ぐらいは温度が上がるのを待ちましょう。
- ② 生ごみは穴を掘ってまとめて入れましょう。また、廃食油や米ぬか、天かすを入れたり、魚のあらなど動物性のものを入れると温度が上がります。

また、廃食油や米ぬか、天かすを入れたり、魚のあらなど動物性のものを入れると温度が上がります。

- ③ 生ごみの量に対して基材の量が多いと温度が上がりにくいことがあります。基材の量を少し減らして様子を見ましょう。

- ④ 冬などで気温が低く、微生物の元気がないと感じたら、ぬるめのお湯(お風呂の残り湯でもよい)をペットボトルに入れて段ボール箱の中に入れて(湯たんぽ代わりに)、黒いカバーで段ボール箱を覆い日当たりのよいところに置くと元になります。

嫌なおいが出た

対処法

- ① 嫌なおいの原因は腐敗です。余分な水分を抜きましょう。
- ② 風通しのよいところに段ボール箱を動かしましょう。空気を好む微生物の働きで分解(好気性発酵)が進むと嫌なおいはしません。全体をよくかき混ぜて空気を入れましょう。
- ③ 分解を進めるために台所の廃食油や米ぬかなどを入れましょう。
- ④ 手の打ちようがなくなったら処分しましょう。



さあ、あなたも一緒に始めよう!

- 段ボールコンポストは、段ボールと基材があればすぐに始められ、手軽で簡単にできます。
- 可燃ごみとして捨てられた生ごみは清掃工場で焼却されます。生ごみを可燃ごみとして捨てるのではなく、段ボールコンポストに投入することで、ごみを減らすリデュースに貢献できます。
- 生ごみを段ボールコンポスト投入して、できたたい肥が肥料になり、野菜を育てることにより、食の循環にもなります。



講習会に参加した人に感想を伺いました

- 段ボールコンポストを始めて可燃ごみの重さが軽くなり、量も2/3に減りました。
- 以前は生ごみの嫌なおいが気になりましたが、コンポストに入れると嫌なおいが部屋に残らず気になりません。
- 初めですが、思ったより手軽にできました。
- ペットのように愛着ができました。

港区3R推進行動会議は今後も段ボールコンポストづくりを応援していきます。詳しくは、
みんなと3R 検索 <http://www.minato-3r.org/>